

令和 7 年度第 1 回青梅市スポーツ振興審議会
会議録

日 時

令和 7 年 5 月 28 日(水) 午後 2 時 00 分～3 時 30 分

会 場

青梅市役所 3 階教育委員会会議室

出席者

(委 員)

山本会長、杉山副会長、神尾委員、渡辺委員、木村委員、
神野委員、早瀬委員、小花委員

(事務局)

橋本教育長、森田部長、中村課長、久保田主査、鈴木係長、白井主任

欠席者

(委 員)

市川委員

傍聴者 なし

進行：中村課長

傍聴および議事録について中村課長説明

中村課長が会議の成立を宣言し開会

1 あいさつ

橋本教育長、山本会長

2 諮問について

橋本教育長から山本会長へ諮問書を読み上げ渡す。

3 報告事項

事務局より説明

(1) 令和 6 年度青梅市スポーツ振興基金条例にもとづく援助等の結果について（資料 1）

取り崩し金額は令和 5 年度に比べ、スポーツ賞の該当者が減少した事に伴い、減少し、収入については、ふるさと納税額の増額があり、結果、年

度末の基金の額は年度当初より増額した。

(2) 令和 7 年度スポーツ推進事業について（資料 2）

令和 7 年度のスポーツ推進課の主要事業やスポーツ施設について説明。取り組む事業の中で、新たにスポーツダイバーシティ推進事業として、年齢や障害の有無問わず、多くの人々がスポーツに親しむことができる環境づくりを推進していく。

(3) 青梅エクストリームスポーツパークのオープンについて（資料 3）

4 月 27 日にオープニングセレモニーを行い、オープンした。セレモニーでは、パリオリンピック金メダリスト(スケートボード`女子ストリート)の吉沢恋選手等による、デモンストレーションや初心者教室を開催し、多くの方に来場いただき、体験してもらった。

(4) 沢井市民センタープールの休場について（資料 4）

会場(平成 8 年)から 28 年が経過し、設備の劣化が著しい。また、他のプールと比べ、利用者数も少なく、修繕にかかる経費との費用対効果が低いため、令和 7 年度から休場することとした。

(5) 「THE ROAD RACE TOKYO TAMA 2025」の開催について（資料 5）

令和 7 年 7 月 13 日(日)に開催される。青梅市は男子エリートのフィニッシュ、女子エリートおよび一般コース体験ライドの周回コースとなっており、当日青梅駅ではイベントが開催される予定となっている。

〔質疑応答〕

委員:1の決算報告書について、ふるさと納税はなぜ増額したのか。

事務局:ふるさと納税をする際、使用用途を選択できるが、スポーツへの関心の高まりから、スポーツ振興を選択する人が増えた。また、青梅マラソン大会の出走権が返礼品の1つとなっており、寄付する人が増えた。

委員:決算報告書の会場について都道府県を入れた方がよい。

事務局:会場名だけでなく都道府県も記載する。

委員:資料 2、令和 7 年度スポーツ推進事業の 16 ページ以降に施設の一覧があるが、修繕等で使用できない施設はあるか。

事務局:令和 7 年度住友金属鉱山アリーナ青梅館内照明 LED 化および受変電設備改修工事を実施予定だが、令和 8 年 2 月以降の実施のため、今年度工事の予定はない。

委員:TCN スポーツパーク永山の陸上競技場は実状、陸上競技で使用されているのか。

事務局：陸上競技用としての使用は少なく、サッカーやイベントで使用されている。

委員：沢井市民センタープールは休場とあるが、今後再開する予定はあるのか。

事務局：条例を整備し廃止にする予定。

委員：休場中の安全措置はどうするのか。

事務局：年に数回、職員が見回りを行う予定。プール内の水を抜くか、はったままにするかは建物の構造から検討する。

委員：エクストリームスポーツパークの施設見学者数に体験者の保護者や連れ添いの子どもは入るのか。

事務局：入れていない。見学をしに来た方のみ的人数としている。

委員：エクストリームスポーツパークの利用者数に対する評価は。

事務局：平日の利用人数が少ない。初心者教室等を増やし新規利用者を増やしていきたい。

4 諮問事項

青梅市スポーツ振興基金条例にもとづく援助および表彰について（別紙1・別紙2）

事務局より説明

各種援助申請一覧および表彰候補者一覧について

〔質疑応答〕

委員：表彰候補者一覧の所属団体の確認は行っているのか。

事務局：申請があった際に口頭で確認している。

委員：所属が青梅市スポーツ協会の加盟団体の場合、個人からの申請ではなく、一度団体に返し、団体からの推薦としてほしい。

事務局：承知した。情報共有も兼ねて一度団体に返し団体から再提出してもらうこととする。

委員：スポーツ育成強化事業で2団体返還しているが、今年度は実施できるのか。

事務局：昨年度については予定をしていた事業が実施できなかったため返還。また今年度は2団体の内、1団体について、実施の予定がないため申請自体をしていないが、1団体は実施を予定している。

委員：別紙1・2で同一人物で大会日程に差異があるため揃えた方がよい。

また、別紙2の大会規模の表について、候補者一覧の順番(国際→全国→関東～)と揃えた方がよい。

事務局:修正する。

委員:表彰候補団体のダンス競技について、一般・大学の部と高校の部どちらにも出場している選手がいるが、選手の年齢内訳は。

事務局:大人、高校生、小学生の混合チームであり、一般・大学・高校の部のチーム編成は中学生以下と混合可能となっている。なお、選手の参加カテゴリーは、チーム内で最も年齢の高い者に合わせる事となっている。

委員:援助や表彰の数の推移は。

事務局:援助は増加傾向にある。表彰はスポーツ賞についてはあまり大きく変動ないが、スポーツ奨励賞は増加傾向にある。

委員:表彰候補の全国大会等の定義があいまい。今後検討したほうがよい。

〔結果〕

すべて「適」として答申

5 その他

次回の審議会は9月中旬ごろ開催予定。

※ 参考資料

青梅市スポーツ振興審議会条例（参考1）

青梅市スポーツ振興基金条例（参考2）

青梅市スポーツ振興基金条例施行規則（参考3）

青梅市スポーツ振興基金条例にもとづく表彰基準（参考4）

青梅市スポーツ振興審議会の会議の公開に関する取扱要綱（参考5）

～閉会～